



『神埼清明高校での研修中』アリスは左端

>>> 「ビューティフル・マインド」

アリス・インサソイは突然言葉を失い、大粒の涙を流した。

11月30日、タイから佐賀にやってきたクーキャオ高校3年生のアリス・インサソイは、地球市民の会のアジアセミナー・タイの第2部の懇親会に出席していた。一品持ち寄りパーティは地球市民の会の昔からの恒例のパーティだ。パーティが進むうちにどこからともなくバースデーケーキが運ばれてきた。アリスはそれが何かわからない。誰かが言い出した。「あさって誕生日の人がいます。そのためのハッピーバースデーをします」アリスはまだよくわからない。通訳がアリスに向かって翻訳した。その時花束を持ってきた日本人がアリスの前までやってきて「誕生日おめでとう」と言った。やっと自分の誕生日をみんなが祝ってくれていることに気付いた。

ハッピーバースデーの歌が流れる。そしてアリスがロウソクを吹き消した。少し興奮して一度では消せなかったから、何回も吹き消した。感想を求められたアリスは「こんなに幸せな誕生日は経験がない」と話した。そして…。

今年、地球市民の会が奨学金を出しているタイのクーキャオ高校の学生が3名、先生が2名が佐賀にやってきて12日間のホームステイプログラムを行った。タイからの幸せの使者たちはたくさんの感動と思い出を残していった。

(詳細は次号でお伝えします。)

CONTENTS ■ 2008 冬

第三の目 会長 古賀武夫 2

■地球市民の会

ミャンマーエッセイ	森中紘一	3
タウンジー便り	山内一平 杉山史恵	4
韓国訪問報告	窪川 智	5
タイ奨学金調査報告	西村尚子	6・7
青年海外協力隊レポート エチオピア 「アベベを生んだ高原の国」	大上貴謙	8
活動報告		9
協力者一覧		別紙折込

■夢の学校をつくる会

機会を提供する場所として	有岡大介	10
夢の学校で柔道指導	森田次男	11
夢の学校教育シリーズ④	夢学事務局	10・11

■古賀英語・空手道場

夢！感動！情熱！ 佐賀の地で第二の古賀先生になる	北原香菜子	12
-----------------------------	-------	----

■共同執筆

編集後記 ひとこと「平成20年はどんな年に？」 事務所住所、事務所スタッフ一覧		13
1～3月のお知らせ		14

「認定NPO法人」取得でさらに感動を！

地球市民の会 会長 古賀武夫

今年、日タイ修交120周年と云うこと

で、我が地球市民の会もカウンタートパートのひつじ、クーキョウウイタヤ校(KK)から校長、担当職員、高校生3名を11月24日から招待し、連日様々な催しを行いました。

30日は里親の皆さんも招いての彼らの報告会の日でした。本来は不在のため参加できない予定でしたが、たまたま佐賀に帰っておりだったので参加でき、挨拶をするのが出来ました。

引率のスラポン先生とは、旧知の仲ですが、10年近く会っていませんでした。なんと、そのスラポンは、私を見るや否や、目頭から涙を流しているではありませんか。今回は会えないかもしれないと聞いていた彼は、私に気を遣っていたことが手に取るようにわかりました。

これで、私の脳みそもスイッチON!!! この20年のKKとの付き合いが、走馬灯の如く、脳裏を走り抜けていきました。イサーンと呼ばれるタイ東北部のあの貧しい地域にあるKK、生活状況は改善されてきているとはいえず、まだまだ厳しい状態は続いています。

それが、17年前に開始した私たちの月1,000円の奨学金で、子供たちの人生が変わって来ているのです。いつの間

にか、私も泣いてしまっていました。

12月3日、タイの子どもたちの送別会を行いました。里親さんたち中心の20名くらいのごじんまりした会でしたが、とても感動的な会でした。料理も、皆さん手作りの一品を持ち寄って頂きました。

その席で、福岡市からやって来た元青年海外協力隊タイ隊員の井上議(はかる)さんが、少し斜に構えた笑みを浮かべながら、「じつじつたのが印象的でした。」

「月1,000円や2,000円のお金で、これだけの感動が出来るんやから...」 私たちに出来ることはたくさんあります。そして、全ては縁で始まります。

このきっかけを作ってくれたのは、今は亡き、ジャンロンと言っ立派な男です。私が本当の弟のように付き合っていたジャンロンは、常に弱者のことを気遣い、私と同じ8年前に肝臓がんを患い、数年前に、あの世に旅立っていきました。

全ての事象には歴史があります。恩人もいます。誰のおかげで、今があるかを語り伝えることは、人間の筋であり、当然のことです。それをやらせずあなたも自分か誰のお世話にもならず始めたように装うのは、偽善、かつ詐欺であります。

地球市民の会事務所には、狭いながら

も、ジャンロンのポर्टレートを始め、歴代会長他、お世話になった皆様のポर्टレートを簡単な説明付きで飾り、新しい職員、会員さんが訪問された時に、どうやってこの会が始まったかが分かるようにしています。地球平和道場にも、そして、我が家においても、会ったことの無いご先祖様のお写真を飾らせていただき、子孫たちが、自分のいのちのつながりが分かるようにしてあります。

この宵、私は、夜が更けるまで、語り合っていました。感動の一夜でありました。皆様には「感動」の文字があるのみだということを再確認しました。

* * *

さて、これから暫らくの私の仕事は、個人的にも社会的にも、これまでやって来た事の全てに一応の始末をつける事だと思えます。その一つが、ニラコンソーシアムの設立。そして、その為の資金調達です。寝ている暇は有りません。お金様に敬意を払い、清貧ではなく清富となり、必要な資金を生み出すことです。

そこで、現在、地球市民の会では、全国で未だ73、九州8(福岡6、熊本1、鹿児島1) : 平成19年11月現在)しかない「認定NPO法人」を佐賀県で初めて取得すべく作業を進めております。

この認定を取得しますと、NPO法人地球市民の会(NPO法人夢の学校をつくる会、(有)古賀英語道場、和道流空手道柔術拳法古賀道場他、私の関係する事業主)を含みま

す)に対する皆様方の寄附が、個人の場合はその年分の総所得金額等の合計額から控除することができ、法人の場合には一般の寄付金の損金算入限度額とは別に、当該損金算入限度額の範囲内で損金算入をすることが出来ます。また、企業の製品提供が寄附金として損金算入できます。

詰まり、当会にご寄付いただいた金額分が「節税」の対象となり、皆様が納税された浄財は税金として社会に還元しながら、その一方で、私を信じて私を通じて、「もう一つの社会貢献」の為にお使い下さる事も選択可能になります。

目下、申請に向けて地球市民の会の事務局では、福岡国税局との打ち合わせ及び申請作業を進めている所です。

この事を皆様がいち早く伝えさせて頂き、是非、来年3月の認定NPO法人取得の暁には、皆様からの絶大なご支援、「ご協力を賜れば、幸いこれに過ぎるものはございません。

古賀武夫、まだまだだやまごじばかりです。皆様の「ご協力、ご支援」をお願い申し上げます！

上求菩提下化衆生 平成19年12月6日

古賀武夫 合掌九拜



さて、前回の原稿の最後で、南シャン州で働きながら、私には、宮沢賢治の「アメニモマケズ」の詩が、しきりに思いだされるといふことを書きました。

これは、日本のドナーの方の善意を付託されて、毎日、ミャンマー人スタッフと一緒に村に入り、限られた予算で、支援活動を行なっていくなかで、こういう感想を抱いたのですが、実はまだ話が続きます。

この宮沢賢治の詩を、妻の日本語教室（漢字教室）のミャンマー人の数人に日本語で教えましたところ、内容が理解した段階で、全員がこれは私たちが信じて、日ごろから実行しようとしている仏様の教えですという反応が即座に返ってきました。私たちが経営している高校生寮（毎年、16名の高校生を将来の循環型農業普及、村落開発の指導者として育成するための研修センター）の15歳16歳の子供たちの反応もまったく同じでした。

そうです、ミャンマーの人々は、子供のころから宮沢賢治のこの詩が意味するところを理解し、実際に実践しているのです。ミャンマー人の仏教に対する敬虔な気持ちは、私たち日本人（私だけかもしれませんが）には想像以上のものです。いや、かつては日本人も持っていたが、いまや忘れかけているものといったほうが適切かもしれません。

仏教の教えにもとづいた相互扶助、



【第二回】

ミャンマー人と 仏教の教え



TPAミャンマー事業責任者

森中紘一

自助努力の精神は、我々のミャンマー事業の対象地域ポオー自治区（約100万人南シャン州）では、特に顕著です。

前号でも述べましたように、私は、アフリカ、東南アジアの幾つかの国でJICAプロジェクトの専門家として、10年近く働いた経験がありますので、いつも痛感していました。自助努力の精神があるからこそ援助が生きてくるので、これがないところでの援助活動は空しく疲れるものです。

たとえば200万円相当の校舎建築の要請がでてきたとします。この地では、村の小学校にもうひとつ校舎があれば、今までは、5年生以上になると5〜6Km離れた隣村の学校までいかなければならなくなり、そのため教育を続けられない子供が沢山でてきます。そういう子供に教育を受けさせたいとい

う村人の切実な気持ちがありますので、それこそなけなしのお金をためて5年間かかっても校舎を作りたいという気持ちがあります。したがって、必ず30%〜50%は自分たちが、寄金を集めるので、残りを支援していただきたいという形の要請となります。他の国では、ドナーに対して、ほとんど全額が実際の金額以上の要請をだしてくる例が多いのです。自助努力が強いところでの援助活動は、達成感があり、疲れません。いままで6ヶ月間ハードに仕事をしてきましたが、不思議に疲れません。ミャンマーの人々から自助努力の気持ちが伝わるからだと思っ

ています。（もうひとつ疲れない原因は、私たちが活動しているタウンジー及び周辺村は、1500メートルぐらいの高地にあり、ちょうど日本の軽井沢のような気候です。ごしやすいこともあります。）

ミャンマーの人々の仏教への敬虔さに関して、もうひとつ特徴的なのは、瞑想への深いこだわりです。

パゴダ、仏教寺院が沢山どこにでもあるのですが、それと並んで瞑想寺も沢山あるのがミャンマーの特徴です。心の平安をもとめる気持ちが、つよいのでしょうか、大人だけでなく、若者、子供でも、休みには、数日、数週間（場合によっては、数ヶ月も）瞑想修行をしたがるようです。わがTPAスタッフのうち若き女性通訳も、休暇には瞑想寺に行きたいといつも言っています。また日常的に夜寝る前など1時間近く瞑想している方も多いうです。

私も妻も、ミャンマーの人に習って、瞑想する心の余裕をもってここでの仕事をしていきたいと思っ

以上



ティハムスウ工僧院 アリヤマカン国際内観瞑想センター
僧院長 アシン カン ティダジャ

■地球市民の会がいつもお世話になっている名僧。瞑想の指導もやっている。この瞑想センターには日本人も訪れる。

ミャンマー ヤバデー (大丈夫) 便り 「ミャンマー麺料理の常識」

ミャンマー事業現地調整員
杉山 史恵

ミャンマー人は概して麺好きです。

ヤンゴンでは朝はモヒンガー（魚やバナナの茎からだしをとったスープに素麺をや、具材に瓢箪や揚げ物を入れます。）や、オウノッカスウェー（ココナッツとひよこ豆スープに中華麺）を頂く人が多いですし、ここシャン州ではシャンカウスウェー風麺料理（説明不可能、でも、とにかく美味しい！）やトーフヌウェ（液体状の豆腐に米麺を入れたもの）が人気です。私のタウンジーでのお気に入りにはナンカスウェー（すりゴマとシャン地方特有の味噌を和えた麺料理、ジャージャー麺のよう）です。

高地タウンジーに赴任し一ヶ月、まだまだ寒さに凍える毎日でタウンジー通にはなっていませんので、麺料理について私の過去の「あ～、なるほど！」の経験をお話します。

私は以前の職場でJICAのプロジェクト地域で栽培し製麺した蕎麦を頂いたことがありました。そこで麺好きミャンマー人に日本の麺料理を紹介しようと蕎麦を茹で、氷水で冷やし、わさびと海苔、めんつゆを食卓に用意し、「さあ、召し上がれ！」と笑顔で蕎麦を振舞いました。ところが、職場のミャンマー人職員は誰も箸をつけません。すると年長の職員が、「あ～、申し訳ないんだけど、私達、ミャンマー人は冷たい麺を食べる習慣はないです。さっき、氷で洗っているのを見た時、皆で相談し食べないことに決めました、ごめんなさい・・・。」他の同僚からは「氷で冷やすなんて、絶対に食べられない！」の一言、ゲテモノ料理のような言われ方にショックを受けました。

しかし私もめげてはいません。翌日は温かい海老天ソバにしたところ、昨日拒否権発動のミャンマー人職員はみんな、喜んで完食してくれました。酷暑のヤンゴンなのに、麺は温かいのが常識なのですね。

ある時はまた、同じ職場で、「一度イタリア麺って食べてみたいの、つくって！」というリクエストを貰いました。イタリア麺とはパスタのことです。

一般的なボロネーズにしようと考えましたが、イスラム教徒職員は豚肉とイスラム法に則って屠殺した鶏以外はだめ、仏教徒職員の中には牛は食べない人もいて、結局、お肉はヤギになりました。（違う宗教が混在している職場での食事は本当に大変です。）ヤギをミンチして炒めてトマトソースにからめて、スパゲッティを茹で、フォークとスプーンを用意して完成！同僚達は嬉しそうな笑顔で、「いただきます！」ところが、まずは私の用意したフォークとスプーンを逆に持ち替えました。私は「あれ？皆、左利き？」と思ったその時、皆が一斉にスプーンでスパゲッティを細かく切り出しました。

私は「・・・？」初めてのスパゲッティの彼らにとってフォークに絡めて口に運ぶ食べ方という知識は無く、東南アジア風にスプーンにのる大きさに切っていたわけです。箸を使う習慣がないので、麺も長いものは切って食べるのが彼らの作法なのです。

所変れば食習慣も大きく変わるものですね。「麺は温かいもの、スプーンにのる長さに切って頂く。」以上、ミャンマーの麺料理の常識でした！

今はタウンジーの郷土料理を研究中ですので、また、皆様にご報告致します。



「日本とよく似た『豆腐』もありました。でも、食べ方の癖が全然違う！」

インターン通信 タンボジ日和 (^ ^)

2007年11月吉日
山内 一平

「第2日目～星は天の贈り物、じゃあこれは？」

日本のみなさん、ミンガラパー。

ということで、私がミャンマーにやってきてから、早いもので6ヶ月がすぎようとしております。ミャンマーの11月といえば何といてもお祭りの季節です。10月末の満月の日にはお坊さんにさまざまな贈り物をするお祭り、11月末の満月の日には気球をとばすお祭りがあり、わがタンボジ村もいつも以上にぎやかです。

私がタンボジ村に住んでいる唯一の日本人ですので、何かお祝いがあるとすぐに誘いの連絡が入ります。たいていは食事やお茶、お菓子などをいただくわけですが、話はずんでくるとお酒をどんどん勧められ、深夜まで和気あいあいと話しこむ場合が少なくありません。帰りは当然、暗い夜道を歩いて帰るわけですが、毎回その星の多さと明るさにびっくりしてしまいます。

まるで星の粉をまいたように暗い夜空に星が散らばり煌々と輝いているのです。私はどちらかといえば星に願いをこめるタイプではないのですが、いまにもこぼれ落ちてきそうな数多の星のまたたきに我を忘れて魅入ってしまう時何度となくありました。しかし、もちろん、ここタンボジは楽園なんかではありません。星空を見上げて歩いていると、足元に「グニュッ」といういやな感触。あまり踏む機会はないけれど、一度踏んでしまえば二度と忘れることのできないあの感覚。そうです、牛の大きな落し物です。

現在の日本ではこの落し物を見る機会はほとんどありませんので、どのくらい「大きい」のかよくわからない人もいますので、念のため説明させていただきますが、だいたい結婚式のケーキカットの時に出てくるケーキの塔の、一番下のケーキを二つ重ねたくらいの大きさです。けっこう大きいですよ。ロシア帝国のニコライ3世が隠し持っていた時価数億ドルの金塊とほぼ同じ大きさと言い換えてもいいかもしれません。（って、余計に解らなくなりました？）いずれにしても、循環型農業の世界では牛糞は大事な畑の肥しです。

実際、私が土着菌堆肥を作る時はこの牛糞のお世話になっており、また私たちは循環型農業を基盤とした共生社会の創造を目指しているわけですので、そういう意味ではわれわれTPAのミャンマー事業は「牛糞」が中心となっているといっても過言ではないと思います。しかし、そうはいつでもフンはフン。こやしにするのと自分の足にべっとりつくのとでは事の重大さが違います。すぐに近くの用水路に駆けこんで、足をごしごし洗いました。

以前、村のおじいさんから、ミャンマーには「星は天の贈り物」という考えがあるという話を聞きました。その時は純粋にすてきな言葉だなと思ったのですが、そんな星空の下、ウンのついた足を洗っていると、ここタンボジ村にはそれ以外にもさまざまな贈り物があるのだなということに気づかされました。

というわけで、ここタンボジ村で見る星空はため息がでるほど美しいのですが、夜道を歩く時は要注意。空には「天の贈り物」がありますが、下には「牛の贈り物」があるのですから。そうはいつでも、結局どちらとも自然の贈り物であることには変わりありません。日本では「天の贈り物」も「牛の贈り物」も少ないでしょうが、私が暮らしているタンボジ村には幸いなことに、どちらの贈り物もたくさんあります。

そういうことを考えるにつけても、私たち人間は自然の中で暮らし、自然



の恵みを受けて生きている生き物の一つなのだということをしみじみ感じてしまいます。「環境の世紀」といわれる21世紀。環境教育やエコロジー、ロハスな生き方も必要ですが、大切なのは道端にある牛の「落し物」を「自然の贈り物」と感じることでできる感性なのではないでしょうか？

釜山地球市民の会 設立決定

～韓国NGOとの協働にむけて～

11月1日、2日の日程で、釜山で活躍するNGOが集まり、釜山NGOフォーラムが開催されました。地球市民の会からは山口幹事、大野事務局長そして窪川事務局長が出席いたしました。

釜山での講演

1日に釜山広域市市庁舎12階の国際小会議室で行われた「アジアNGO交流フォーラム」では、釜山を中心に活動する韓国のNGO、日本の大学教授の講演をして地球市民の会の講演の後、釜山における今後の市民活動について意見交換がなされました。

当会からは大野事務局長が「日本におけるNGO・NPOのアジア交流協力事業」地球市民の会を中心に」と題し講演、コミネット協会理事長

でもある山口幹事が「社会的企業」『ソーシャルエンタープライズ』の日韓における今後の展開への提言」と題し、講演をいたしました。



釜山地球市民の会設立を決議

講演後の、釜山における今後の市民運動に関する討議では、「釜山地球市民の会」設立が決議されました。朴明欽氏を中心に、釜山韓日文化交流協会のバックアップのもと、韓国での活動を強化してまいります。まずは、2008年度、日本と韓国若者が共同で交流・学習し、そしてイベントをつくる「日韓青年交流2008（仮称）」をはじめ、様々な交流を企画しております。

ゆくゆくは、地球市民の会と韓国のNGOが、当会で協力をしているアジア各国において協働で協力活動をしたり、協働でシンポジウムを開催するなど、東アジアの先進地域に住む両者が、市民運動でもパートナーシップを強化し、共に活動してま

いりたいと考えております。

釜山NGOとの交流そして今後に向けて

2日には、釜山で活躍するNGOの方々とのワークショップ、そして夜には、当会ともつながりの深い、釜山韓日文化交流協会の創立20周年記念式典に出席してまいりました。

韓国の市民活動関係者は、韓国の市民運動の成熟度はまだまだだと自らをとらえているようでしたが、釜山のNGO関係者の方々からはみながる活力を感じました。私たち地球市民の会も、釜山のNGOから刺激を受けて学んでいきたいと思っております。来年度から、本格的に韓国との連携事業を再開する予定です。



韓国に詳しい、あるいは関心をお持ちの会員の皆様のご協力をお待ちしております。

ぜひ一緒に、地球市民の会の韓国との新事業を作ってまいりましょう！今後の活動に、皆様からのご理解と、ご指導ご鞭撻、お願い申し上げます。



タイ奨学金調査報告

クーキャオウイッタヤ校を訪問して

タイ奨学金担当理事
西村 尚子

タイ東北イサーン地方特有の赤土が口の中で”ジャリジャリ”と音を立て、私はその無機質な違和感に浸っていました。それは乾期のほこりっぽい風のせいだけではなく、子供たちの逃れられない貧困の現実が私に切なく苦い気持ち

を与え、口の中の砂となつてその砂を噛まされたように感じさせられたからなのです。

タイで最も貧しいといわれている東北部ウドンタニ県チート村にあるクーキャオウイッタヤ校は、1977年に創立されました。クーキャオ校が設立される前は、クーキャオ村からウドンタニ市に23キロほど戻ったノンハーンの学校に通わなければなりませんで



「筆者とタイの子ども」

た。この地域の子供達のために中学校が必要だという村の農民によって、クーキャオ校は寄贈されたものでした。

1991年に日本の高校1年生にあたるM4を新設。今や地域唯一の高校併設校として中学1年生から高校3年生まで約700名が通う大規模校となっています。

地球市民の会が初めて中学校を訪問した時、小学校から中学校への進学率はわずか8%だったそうです。1978年に大規模な教育改革が実施されて初めて小学校は6年義務教育制となりましたが、農村部の子供達は小学校卒業後に一家の担い手として都会へ出て行き、過酷な労働を強いられることもありました。この状況を改善し、教育の充実を目的に私たちは1990年に地球市民奨学金を開設しました。

1990年代後半より、政府は農村中学校拡大のため、農村の既存の小学校に「機会拡大中学校」と名付けた中学校を設立し、2004年には中学校も義務教育化され、授業の教科書や授業料を無料とし、農村部の中学校への進学率は急上昇しました。その結果、ここ2・3年では進学率は95%を越えています。これには地球市民の会の奨学金も少なくない貢献をしています。クーキャオ校は地球市民の会から毎年345人を超える生徒が奨学金を受け取っています。その事により、中学校で続けて勉強をしたいと望んでいた生徒達が良い仕事に就くという大きな機会を得ることができるようになりました。

今回の調査では奨学金を受け取っている子供たちへの聞き取りをたくさん行いました。中学に進学している子供たちは、“何も困ったことはない”と答えませんが、それが本当

に困ったことがないということではないということもよくわかりました。

両親が出稼ぎに行つて親戚に預けられている子供が多くいますが、そのうちの一人のことです。彼は母親を出稼ぎ先で津波のために亡くしたそうです。出稼ぎに行っている父親とは年一回しか会えず、親に代わつて妹の面倒を見ながらご飯をつくり、小学校に送っていくのが日課です。彼は何もつらいことはありませんといいますが、母親の亡骸に直面したときは随分泣いたそうです。彼らには困ったこともつらいことも日常の中にありますが、それを人に伝えるということをしていないようにしているようです。

クーキャオ中学の校区にある小学校を訪問しました。たまたま昼食の時刻でしたので、子供たちの様子を見ることができました。4、5人が一皿に盛られた野菜炒めを分け合い、各自家庭より持ってきたもち米ごはんを食べるのみの昼食です。それでも、もち米ごはんさえ持つてくることができないでいる子供もいました。顔色が悪く、元気のない目をしている子供たちを見過ごすことができませんでした。この中の子どもの中には、地球市民の会の奨学金をもらつても中学に通うことができないほど貧しい子供たちがいることがわかりました。その埋もれている子供たちの存在を引き上げて、何とか学校に通うことができるようにしたいと思いました。その小学校の先生が話してくれた「学歴と社会の役に立つ人間は違います。経験を持った人が本当に社会の役に立つ人間です。学校とは教育の場でありトレーニングの場であり、子供たちの生活の場です。そして、最低限の読み書きができるようになる場です。まずは、そこから始まっていくのです。」という言葉に、私はこのような先生がいる限り、より多くの子どもに教育を与えることが可能になるのではないかと感じました。

一度は奨学金事業担当を退いた私ですが、今回の訪問で改めて彼らの現実にさらされ、再びタイウィルスの風邪に罹つてしまい、子供たちのことを思い出す度に鼻水が出そうになり、鼻が詰まってしまう。そのせいで、私の心の中には何の香りも感じない空虚な空間が広がっているのです。



「穴のあいた靴下が、サポーターのようになっています」

地球市民の会が1990年から実施している地球市民奨学金は今年で17年になりました。この間、事業内容については何度も議論をしてきましたが、現地の奨学金を受けている環境も変わってきており、実際に奨学金が役立っているのかを確認する必要があるのではないかということで、現地調査を実施しました。



今回の調査で特に確認したかったことは

- ①中学校が義務教育化され5年経ったが、奨学金はまだ必要か？
- ②17年前と同じ額で事業を進めているが、果たしてそれが今でも足りているのか？
- ③事業の自立は可能であるか？



ということでした。

そこで、今回はクーキャオ学校だけに焦点を当て、先生と保護者、奨学金をもらっている里子と、将来クーキャオ中学校に来るであろう近辺の小学校の校長にインタビューを行いました。以下それぞれの事項に対する調査結果です。

①中学校が義務教育化され5年経ったが、奨学金はまだ必要か？について

政府による中学校の義務教育化のため、小学校から中学校への進学率は90%を超えている。しかしこれは、義務教育化したために保護者の経済的負担が減ったからパーセンテージが上がったという単純なものではなかった。元々、公立の中学校の学費は小学校へ行かせるよりもきわめて多額というわけではなかった。義務教育化して政府から学校へ生徒1名当たり補助が出るようになったので親の負担が減ったということはある。しかし、それは進学率を上げるためには大きな力になったとはいえない。



むしろ、法律で義務教育化したため、学校へ行かせないと法律を破ることになるので子どもを学校へ行かせるようになったということ、学歴社会が急激に進むことで親世代に教育の重要性が認識されるようになったことの方が進学率を上げる強い要因になっているようである。

したがって、「奨学金がなくなれば親は子どもを学校に行かせることをやめさせるか」という問いに対して、中学生の場合7～8割はそれでも学校に行かせると親が答えるだろうという先生側の回答である。親は自分たちの自主努力を見せるためか、同じ質問に対してはほとんどの場合「やめさせない」と答えた。

しかし、奨学金を受けている各家庭は経済的負担をカバーできるほどの収入はなく、生活を圧迫させることになることは明白である。つまり、義務教育だから親は学校へ行かさないといけないが、その分生活が厳しくなり、その負担の多くは子どもに及ぶだろうことが考えられる。

聞き取りによると、学校へ行かせるために親にかかる負担で大きいものは学校へ行くバス代、屋敷代、教科書代、制服代であるが、（これらは奨学金を受けている学生の多くの使途と一致する）奨学金がカットされるとこれらの負担が親に来るわけで、十分な資金のない親は子どもに我慢させることとなり、屋敷が食べられない学生や、ポロポロの制服を着なければならない学生が出てくることになる。

つまり、地球市民奨学金は子ども達の学校に行くための教育環境改善の役割をまだ持っているといえる。

②17年前と同じ額で事業を進めているが、果たしてそれが今でも足りているのか？

バーンサムパーハン小学校はクーキャオ学校の近郊にある小学校で、ここの卒業生はクーキャオ中学校に入学してくる。ここの先生サムリットハウハーンは12年前クーキャオで中学高校と奨学金をもらった経験を持つ。奨学金がなければ自分は高校にも行けなかったし、先生にもなれなかっただろう、と我々に感謝の気持ちをこめて話してくれた。

彼に、今の奨学金の額について話を聞いた。

「当時は昼食代が3パーツだったが、今では15パーツになってしまっている。当時は昼食代、バス代、教科書代が奨学金で賄えた。しかし今は、一年間のバス代にもならないぐらいだ。」と答えた。つまり、今の額では充分な額とはいえないということだ。それならば当然、子どもたちへ渡す奨学金の額を増やしたほうが良い。

しかし、そうすると、日本の里親さんの負担が増えることになる。月1,000円の奨学金を集めるのに毎年苦労しているのに、月額を増やすと事業を続けるのが難しくなる。そうすると、一人の金額を増やす代わりに奨学金受給者の数が減ることになる。その件についてサムリット先生に引き続き質問した。

「人数を減らすのは止めて欲しい。親にとってそれは充分な金額ではないかもしれないが、しかし、それがあから励みになっている親もたくさんいる。奨学金がなくて全ての費用を負担しなければならないことになると、困ってしまう親はたくさんいるだろう」と答えた。タイの親たちの精神的な支えになり、奨学金は役立ってはいるが、現実的には不足しているということだ。



サムリットハウハーン先生

③事業の自立は可能であるか？

クーキャオの先生に、クーキャオの奨学金をもらった卒業生に声を掛けて奨学金基金を作ることが可能か尋ねてみた。

すると彼らは出来る、と答えた。昨年学校の給食室の改装を行う際、その時学校に予算がなかったため、初めて卒業生に声を掛けてお金を集めたそうだ。そうするとバンコクなどで働く卒業生たちがお金を寄付してくれたのだ。その実績から奨学金ファンドを作るとは可能だと答えたのだ。だが、それを実際に行うのなら、学校でリーダーシップをとって運営する先生が必要であるということ、すぐに出来るというわけではなく、話し合いによるシステム作りが必要だということも彼らも認識していた。

これらの事柄から言えることは、

- ①奨学金は充分ではなく、奨学金がなくても中学校へ通うことが出来る子どもは多い。
- ②奨学金が充分ではなく、奨学金をもらっても貧困のために中学校へ行けない子どもも僅かだがいる。
- ③奨学金は充分ではないが、これによって助かっている家庭はたくさんあって、続けてもらいたいと思っている先生がたくさんいる。
- ④自分たちで事業を続ける意志はある。

ということでした。

いま、地球市民の会奨学金委員会ではこれらの件を踏まえ、17年続いた奨学金をどうするか議論を進めていく予定です。今後の成り行きを見守りください。また、会員の皆様のご意見もお伺いしたいところです。お手紙、もしくはe-mailでお寄せいただきたく存じます。

エチオピア

アベベを生んだ高原の国

青年海外協力隊員としてエチオピアで活動をしている、大神貴謙（材ガミカヨシ）です。この誌面を使って、エチオピアで気付いたことや感じたことをお伝えしています。前は私の住んでいる街である、青ナイルの源流の“バハルダール”を紹介させていただきましたが、今回は私の隊員活動の報告も交え、エチオピアのICT（Information and Communication Technology：情報通信技術～ITとほぼ同じ意味）事情について述べてみようと思います。

大神貴謙



若者のケータイ所持率は高い

普及しつつあるICT

都市部の一部の企業ではEnterprise Resource Planningシステム（経営資源を効率的に活用するためのシステム）が取り入れられているところもありますが、殆どの企業ではITなしの昔ながらのやり方で業務が進んでいます。とはいえ、飲食店にWordで作られたメニューが置かれはじめたり、事務職の求人にPeach Tree Accountingという会計ソフトの経験が必要になりはじめたりと、少しずつですがITの利用が普及してきているのは確かなようです。

こちらは私の専門ではありませんが、ケータイの普及は加速度的に進んでいます。少なく見積もって、平均月収の3ヶ月分は初期費用で掛かるにも関わらず、かなりの若者がケータイを持っています。首都のアジスアベバでは、中学生と思われる女の子がメールに興じている光景さえ目撃しました。しかし、基幹ネットワークの改修がそれに追いついていないためか、しばしば回線は不通になることがあります。

蔓延するコンピュータウイルス

多くのPCには（良いか悪いかは別として）海賊版のウイルス駆除ソフトがインストールされています。しかし、満足なインターネット環境が整えられていないためか、ウイルス定義ファイルの更新がされていないケースが頻繁に見られます。この結果、結局コンピュータウイルスの蔓延は防げていません。私を含めたエチオピアのICT系隊員は、いつもコンピュータウイルスの駆除に大忙しです。

エチオピアのコンピュータウイルスは日本で見たもの比べ物にならないくらい凶悪で、重要なドキュメントをいつの間にか削除したり、アプリケーションを動作不能にしたり、果てはWindowsを起動できなくしたりします。それがUSBメモリを挿すだけで広がるので、本当に厄介です。エチオピアのICTの発展にまず必要な人材は、メンテナンスやセキュリティの専門家なのかもしれません。

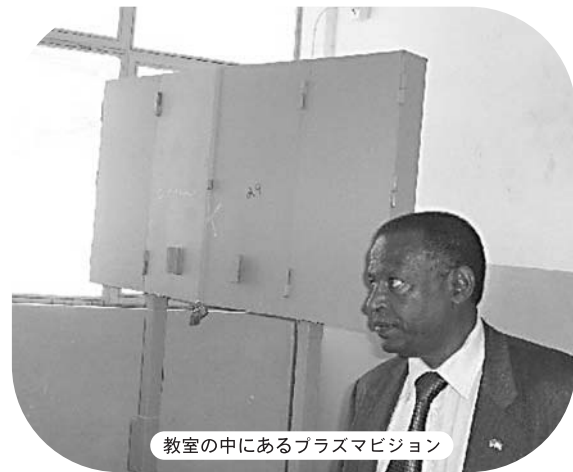
ICTと教育

エチオピアはICT教育の途上国であり先進国でもあります。まずは先進国の側面から見ていきましょう。エチオピアの全ての高校にはプラズマビジョンが設置され、授業は衛星通信で配信されています。どこにいても同じレベルの教育を受けられるようにと導入されたこのシステムには、賛否両論があって現状では評価を定められませんが、野心的な取り組みであることは間違いないでしょう。

対して、ICTの授業のカリキュラムは発展途上です。

理論中心で実践的ではないため、大学や技術短大を卒業したとしても就職を得ることが難しく、学生は外部の学校に通ってスキルを補完することが多いです。また、セキュリティの授業がすっぽりと抜け落ちていることは、コンピュータウイルスの蔓延に歯止めがかからない理由の一つと分析されています。

これらの改善は、ICT系隊員の共通の課題です。



教室の中にあるプラズマビジョン



IT活用をリードするネットカフェ

私に取り組もうとしていること

以上の状況を踏まえつつ、私はPCのセキュリティやメンテナンスについての教科書作成と、Linuxの普及活動を進めようとしています。コンピュータウイルスの蔓延は配属先の大学でも深刻で、大学に出勤すると毎日ウイルス駆除の作業が待っています。今は私が作業を行えるので問題ありませんが、私がいなくなった後は現地のスタッフが作業をしなくてはなりません。そのため、教科書が必要となるのです。

Linuxの方は海賊版対策です。エチオピアが今後発展すれば、ライセンスの問題から目を背けることはできなくなります。その前に、ライセンスフリーという選択肢を提示できればと考えています。

どうでしたか？ この記事で、少しでもエチオピアのICT事情を把握してもらえたら嬉しいです。今回は、私が配属先の大学の外で取り組んでいる隊員活動について紹介したいと思います。

ホットニュース!

■神戸で「いのちのまつり」が実施されました

9月29日(土)13:30より神戸市立灘区民ホールにて絵本「いのちのまつり」をテーマにしたイベントが開催されました。朗読による絵本のスライドショーや木村まさ子さん(木村拓哉氏のお母さん)による講演、木村さん他、古賀武夫会長や佐藤昭二副会長、松元隆司 神戸有頂天倶楽部会長を加えての座談会が行われました。神戸の若者パワーが炸裂したすばらしいイベントとなりました。

■地球市民運動連絡会議が神戸で実施されました

9月29日(日)9:00より神戸東灘区「庭鳥」にて、東京、かながわ、ぎふ、みえ、神戸、佐賀、熊本の面々が集まり、近況報告などを交え、今後の活動について話し合いが行われました。来年は佐賀です。次回は北海道、ふくしま、京都、愛媛、北九州、福岡の参加も期待しております。

■会員の集いを実施しました

10月20日(土)15:00~18:00、地球平和道場で会員のためのティーパーティが開催されました。古川佐賀県知事による沖繩のお話、「いのちのまつり」をテーマとした原作者草場一壽氏のお話と副田ひろみさんの朗読に 弓削田健介氏の弾き語りのコラボレーション、ミャンマー報告、など盛りだくさんの内容の集いでした。涙あり、笑いあり、おいしいお菓子とお茶ありの楽しい時間が過ごせました。

次回も皆さんご参加ください!! (ノ*▽*)

■認定NPO法人を目指すことが決まりました

平成18年5月の税制改正において地球市民の会が認定される可能性が高くなったため、認定NPOを目指すことが11月の理事会で決まりました。これにより個人、法人ともに会への寄付が所得控除や損金参入の特別枠の対象、相続財産の課税対象除外となります。会員のお気持ちを少しでも形に変えやすくするために、頑張ります。

■チャリティショップが試験的に実施されました

佐賀の複数の市民団体、個人と協働でフェアトレードをテーマにしたNPOショップを実験的に運営してみます。地球市民の会は女性自立支援のためのタイの草木染、少数民族支援のためのミャンマーの民族雑貨などと、チャリティを目的とした母子のためのセカンドハンド商品などを取り扱ってみようと考えています。楽しく活気があり、継続できるものになれば、本格的な取り組みを考えたいと思っています。皆様のご協力をお願いします。詳細は次号にてご案内したいと思います。

■南カリフォルニア佐賀県人会と協働事業を企画しています

佐賀の将来を担う人材育成のために南カリフォルニア佐賀県人会がアメリカに留学する佐賀の高校生を滞在の間、バックアップをしたというプランの提案がありました。実現可能性について、現在調査をしています。アイデアをお持ちの方はアドバイスをお願いします。

■ミャンマー・タンポジ研修センターのスポンサー決定

JICAとの3年間にわたるミャンマー事業の委託契約が終わり、事業継続のための新しいパートナーが必要になっていました。今回、高校生のための育成寮及び農業研修センターである、タンポジ研修センターの運営に対し、海外教育推進協力機構が今年度

間400万の資金提供を実施していただくことが決まりました。ありがとうございました。

°..。★\(^-^)/♪感謝♪(^-^)/★..。°

■新潟中越沖地震 高齢者・障がい者支援 ゆつくりがんばる義援金 新潟に送金しました

雪に閉ざされた新潟。7月16日の地震からはや5ヶ月、現地の被災者の方々にはさぞ寒さのしみる冬であることでしょう。地球市民の会のカウンターパート浅野ゆう子さん(長岡在住)の話ではまだまだ復興の目処も立たないとのこと。当の浅野さんもまだまだ出来ることが限られていてもどかしさを感じる日々だそうです。少しでも何か出来るようにと、皆様からのご浄財95,159円をお送りしました。ありがとうございました。引き続き募金は受け付けます。ゆつくりがんばれ、じいちゃん、ばあちゃん!!

■外務省日本NGO連携無償資金協力で1953万円の助成が採択されました

多くの人の協力の手で支援しているハムシー高校寮の改築に外務省の助成金が決められました。村民による民族のための寮の環境改善が可能になります。たくさんの方が訪れ、多くの感動を呼んだハムシー高校寮が生まれ変わります。一緒に視察に行きましょう。

■タイの子どもが感動台風を連れてきました

11月24日(土)~12月3日(月)まで、地球市民の会が奨学金を出している、タイ王国ドンタニ県のケーヤオ学校から高校生3名、担当のスラポン先生、校長先生が日本にやってきました。いろんな報告は次号のネットワークラをお楽しみに。滞在の様子はホームページで写真を公開しております!



書き損じハガキ、募集いたします
ご協力及び、お声掛け、よろしく申し上げます。

同封の折込チラシを
コピーして、ぜひお知り合いに
お渡しください!!

(コピー代のご負担、申し訳ありませんが、これも国際協力ということで、ご容赦くださいませえ。涙!)



事務局のブログ(日記)がホームページに登場!!

>>> ブログに書き込みをお願いします。

ホームページに休日以外はほぼ毎日、事務局員による日記が掲載されています。タイ、ミャンマー、スリランカのお話や事務局員のひとりごとなど、話題満載でお送りしています。一番新しい写真も掲載されています。是非皆様にご覧いただき、出来ればコメントなどを残していただくと嬉しいです。また、会長の個人ブログも地球市民の会のホームページから見る事が出来ます。会長が頭の上にトナカイを乗せてメッセージを送っています。(11月27日のブログをご覧いただければ意味がわかります。しょうがないなあ、とは言わないでくださいね)

メールアドレスの募集



会報は季刊になっていますが、いろんな事業は毎月行っています。皆様にいち早く情報をお送りしたいのですが、経費がかかりすぎて郵送も難しくなっています。ホームページには出来るだけ早く情報提供させていただいていますが、忙しくて閲覧できないなどという方もたくさんいらっしゃいますので、メールマガジンでもお送りする予定で準備を行っています。皆さんのコンピュータや携帯電話のメールアドレスを教えてください。



TPA活動報告 2007. 9. ~2007. 11.

月	日	曜	内 容	担 当	場 所・備 考
9	21	金	アジアセミナー 第二回	畑	アイスクエア
	29・30	土・日	テラリング全国大会 In 神戸	会長ほか	
10	23	火	日韓海峡沿岸県市道知事交流会一般聴講	大野・窪川	唐津
	25	木	南加佐賀県人会 中西会長 来訪	会長・大野	古賀道場
	26	金	アジアセミナー 第三回	畑	アイスクエア
	30	火	福岡国税局 認定NPO打合せ	大野	福岡国税局
	31	水	2007青春佐賀総体 ユニフォーム贈呈式	多良・大野	佐賀工業高校
11	1・2	木・金	釜山NGO会議	山口・大野・窪川	釜山市役所 会議室&釜山韓日文化交流協会会議室
	2	金	釜山韓日文化交流協会20周年式典	佐藤・山口・大野・窪川	
	12	月	タイ事業モニタリング	西村・大野	~17日
	24	土	タイ高校生招聘事業	窪川・西村	~12月4日

機会を提供する場所として

副理事長
有岡 大介



学生のころ、ケニアのサバンナを見わたす丘の上で、現地で活動する小説家と話をしたことがあります。彼の名前は「ミスター アフリカ」、けっこうな高齢でしたが、陽気で豪快に笑う人でした。長年、ケニアの若者のために教育や国際交流に取り組んできた人物でした。

そのミスターアフリカから突然「ケニアの若者のなりたい職業は何だと思う？」とたずねられました。答えは「警察官か軍隊、鉄砲を撃てるのがカッコいいから」だそうです。口調は明るかったのですが、少し悲しそうでした。彼は裕福な日本人に途上国の現状を伝えようと語ったのでしょ

が、私はこのとき、同情よりもむしろ共感を感じたように思います。私は偏差値競争時代の真っ只中を走り抜けてきた世代です。将来の目標をたずねられると大半が「いい大学に入ること」と答えるような世代です。「夢のないことでは、ケニアの教育も深刻だけど、日本の教育も同じくらい深刻だよな」と思ったのです。

さて、あれから15年ほどたちました。いまや日本は、偏差値競争世代が社会でも中心、親としても大半を占めてきています。「変な人がいて危ないから外で遊んではいけません」「音楽は音符を見て歌うものです」「空は青色の絵の具で塗りましょう」・・・。ルールや価値観のおしつけられる世の中です。

自分の子どもたちを見ていると思うのですが、ルールや一般的な価値観を理解することももちろん大切ですが、自分で感じ、自分で理解し、未知のものに踏み出していく力を何よりも手に入れてもらいたと思っています。

そんなこんなでたどり着いた夢の学校ですが、子どもたちを刺激できる大人たちがおかしらとしてたくさん集まってきました。いまだにとほもない夢を見るトムソーヤのような大人たちばかりです。子どもたちに教えるのではなく、同じ目線で語り合おうとしている人たちばかりです。夢の学校はそんな夢にあふれ、子どもたちにいろんな機会を提供する場所であってほしいと思っています。

名前のお通り夢を見つけ、持ち続ける力を与える場所になればと願っています。

▶ 田崎先生の熱いお話に感激!



▶ 質疑応答では、英語に対する前向きな質問が飛びかいました!



参加者の声

- 様々な体験やユーモアを含んだ楽しいお話で勉強になりました。
- ことばと文化の深いつながりが分かりました。
- 英語を始めてみようという気持ちになりました。
- 自分の子どもに英語の接触量を増やしてあげたいと感じた。

abc

2007年(平成19年)12月4日(火曜日)
佐賀新聞

英語に多く触れて 田崎さんが上達法指南

佐賀市 NHK「めだた田崎清臣氏の講演会」レジェ英語が一日、佐賀市のメイトプラザで開催された。田崎氏は、NHK「めだた」の英語講師を務める。田崎氏は、NHK「めだた」の英語講師を務める。田崎氏は、NHK「めだた」の英語講師を務める。



英語の上達法について野田崎さん、佐賀市のメイトプラザで講演。

新聞にも掲載されました!

言葉は、相手の国の文化や歴史を知ることで、話すための道具ではなく人と人がつながりを深めるものとなります。あらためて自分の国の文化や歴史を学ぶことの大切さを感じました。今後も様々な分野から教育のあり方を共に考えていきたいと思います。

次回もお楽しみに!!



▲ 田崎先生のお話、参加者の方も真剣に耳を傾けていました。

田崎氏は、日本の英語教育が翻訳に重点を置いてきた弊害を指摘、「easy」や「lover」など簡単な単語でも、日常生活で使われると全く意味が異なる事例などを紹介し、「実用度の高い英語を学ぶ」ということは、文化や発想を学ぶことだと訴えた。英語上達法については、「簡単なメモを英語で書いたり、英語で日記をつけるのもいい。英語への「接触量」を増やす以外に上達の近道はない」と指南した。(市原)

「夢の学校」で柔道指導

武道(柔道)おかしら
森田次男



平成16年10月土ようたまて箱開校以来、武道(柔道)の指導をしていて感じたことを述べてみたいと思います。

まず、始めに、この学校を設立された古賀武夫先生に頭が下がるとともに、ご苦労さんと云いたいです。この飽食の時代、そして人間関係が薄れていくなか、また、子ども達も、一番成長期に遊ばなくてはならないのに、遊ばないし、親も遊ばせようとしない。この様な時に、ようするに育ち盛りの一番大切な時期に隔離して無菌状態の中で育てると云う社会風潮の中で免疫と抵抗力をつけることが大切と思われ、この夢の学校が生まれ、設立されたと、私は痛感しています。

(知識から生まれるのは不平不満、知恵から生まれるのは喜びと感謝)と云う言葉もあるように、夢の学校は知識と知恵の教育を両立している学校であると思います。

私は柔道の指導をしているも時間が8時間と短い時間で、また、柔道衣も着ていない状態での指導なので受身が主で、あとは寝技と立技をと柔道らしき事をしたと云うことにつながると思います。

やはり柔道は人肌をつき合わせて練習をするので、今、現在人が一番忘れつつある(触れ合い)を通した心が自然と生まれてくると確信しております。練習の最後には正座と黙想をさせた後に6つの道場訓を音読させ、その後、時間があれば、吉田松陰の和歌や、葉隠四誓願なども音読させ、子ども達が苦にならないように楽しく指導をしているつもりで、夢の学校の一環になればと思ってこれからも頑張っていくつもりです。

道場訓

- 1、ハイと言う素直な心
- 1、有り難うと言う感謝の心
- 1、済みませんと言う反省の心
- 1、私がしますと言う奉仕の心
- 1、なにくそと頑張る心
- 1、誘惑に負けない強い心



夢の学校教育シリーズ4

英語を学ぶ楽しさ

去る12月1日(土)メートプラザ佐賀にて田崎清忠氏講演会「英語を学ぶ楽しさ」を行いました。

今回はその様子を紹介いたします♪

講演内容

18:00 開場 たくさんの人が来てくれました！

18:30 開演

田崎先生のお話

- 動機付け英語へ対する関心を高める必要があります。
- 会話をするのに文法は必要？ネイティブ英語の25%は文法になってない！
失敗をおそれずに英語と向き合おう。
- 異文化理解とコミュニケーション
“ことば”を話せても相手に気持ちは伝わらない。文化も一緒に理解しよう！
- 接触量が決め手
一日一文日記に英語を書こう！数多く触れることが上達への道。

20:00 質問タイム

「どうやったら映画を字幕なしで観れるようになるの？」
「ジョークを理解できるようになりたい！」 …など多くの質問がありました。

20:30 閉会 ご来場ありがとうございました！



夢!感動!情熱!

OB, OG, 卒業生は宝物です

1980年創設以来、1000人を超える(英語)道場っ子たちが、大学に、社会に巣立っていきました。その卒業生は、まさしく古賀道場の宝物。…前回(トップバッター)は、アメリカの大学で演劇の助教授をしている青柳達也君が登場。「道場は何より『心』を育ててくれた場所」と語ってくれました。そして今回は、会う度に輝きを増す「時空をこえた琵琶法師～びわほうし～(姫)」北原香菜子さんです。



佐賀の地で 第二の古賀先生になる!

北原香菜子

いつ頃からこう大法螺を吹くようになったのかは覚えていません。ただ、それがまんざら大法螺ではないことを意識し始めた頃は覚えていますが、それは、大学を卒業し、佐賀の地に戻ってきた二〇〇五年春のことでした。

今から遡ること六年前。

私は、英語劇祭の影響で、舞台空間を創り上げる演出家の視点で戯曲を研究したいと思い、演劇映像学科のある早稲田大学第一文学部へ進学しました。上京するや否や、ありとあらゆる生の舞台を観るために劇場を駆け回りました。

そのなかで、私の目に留まったものがありました。それが今の私の仕事になっている「薩摩琵琶の弾き語り」でした。

本格的に師匠のもとで琵琶の稽古を始めた頃、私は道場の英語スピーチで得た「ある感覚」を思い出していました。それは、「自分ではない人になる感覚」です。殊、物語の暗唱は、この感覚を味わう楽しみがありました。ただ、この感覚は、物語を繰り返す声に出して読み、言葉が自然に出るまで練習しなくては味わえません。実は、こ

のことは、琵琶の弾き語りにも当てはまることで、語り部になるための言語が「英語」から「日本語」に変わったただだったのです。琵琶に出逢う前から、私は道場の英語スピーチで「語り部」の魅力にトリツカレていたようです。

そして二〇〇五年春。

たんぼの綿のようにふわふわと浮遊しながら、迷いながら佐賀の地に戻ってきました。それでも佐賀に帰れば道場へ行く!どこよりも早く古賀先生のいる道場へ行く!そしてやっぱり、道場へ行けば、古賀先生に会えば、何かに気づかされるのです。―私は、古賀先生のように、しっかりと地に足つけて佐賀で活動しよう!定元から世界を広げていこう!―と目の前にいた古賀先生が恐れ多くも自分の理想像と重なっていました。

あれから三年。あの時の思い、「佐賀の地で活動し、そこから裾野を広げていく」という思いは、今でも変わりません。そしてそれが着々と現実になっています。佐賀を拠点に日本全国どこへ行くにも袴をはいて琵琶背負って、時に日本語、時に道場で培った英語を使って、佐賀のこと、琵琶のこと、歴史のことを話しています。「語学はあくまでも手段」―小学生の時分から道場で聞いてきた言葉。今、その手段を使って、いろんな国の人に自国の文化を紹介できるのは私の誇りです。この

ことは、道場なくては考えられませんが、また、今の私がここにいるのも、古賀先生をはじめ、道場の皆様なしでは本当に考えられないことです。今までも、これからも、感謝の気持ちでいっぱいです。

この気持ちをまだ出逢っていない未来の「道場っ子」に伝えていくこと。それが道場への恩返しになれば、と願って止みません。

北原香菜子(きたはらかなこ)

1983年生 致遠館高校 早稲田大卒業。中1～高3まで道場で学ぶ。英語・空手共に根性と勤の良さでめきめき上達。大学で薩摩琵琶に出会うと、直後から才能を開花。全国大会でも優勝、入賞を果たす。彼女に会うと、「佐賀、そして日本の未来は明るい」と思わせる不思議な(且つ庶民的な)オーラが漂う。薩摩琵琶で過去と現在を繋ぐ演奏活動を全国で展開中。今後もっとも活躍が期待されるOGのひとりです。



▲今年の七月、道場での演奏会にて後輩達と。

次号も、宝箱をあけて素晴らしいOB・OGが登場して頂く予定です。ご期待下さい!

■七福神と国際協調?

七福神という...恵比寿、大黒天、毘沙門天、弁財天、布袋、寿老人、福祿寿。と、縁起のいい神様ですよ。この七福神信仰は江戸初期からあったのは確かです。元日と2日に、宝船に七福神が乗った絵を宝船売りが売り歩きました。この絵を正月2日に枕の下に入れて寝ると、めでたい初夢を見ると信じられて、この夜、見る縁起のいい夢が、一富士・二鷹・三茄子。

ところで、この7人の神にも出身地があることをご存知ですか? 恵比寿が日本(神道)、大黒天・毘沙門天の2神がインド(仏教)、弁財天と同じくインド(ヒンドゥー)、布袋・寿老人・福祿寿の3神は中国(道教)なのです。これは意外!と思われた方も多いのではないでしょうか。日本の俗信はインターナショナルでボーダレスなのですね。他の国の神々をも敬う七福神信仰は、きわめて国際協調的だといえるかもしれませんね(笑)

■タイ語ですよね?

タイ語で「醜い」を指す言葉は「キレイ」と言うように、タイ語での言葉と、日本語で別の意味を指す言葉の音が似ていることが結構あり、初めて聞いた人は混乱することが多いようです。例えば、タイ語で「その通りである」を指す言葉は「チャイマンネン」で、「そうですか?」を指す言葉は「チャイマツカ?」と言うとの事。

ちなみに、「あなたの名前は?」という意味の質問は「チューアライ?」と言うそうです。(←笑えないあなたは若い...)

■肉じゃが調理開始。「よーい!」

肉じゃが誕生の経緯には、大日本帝国海軍の軍人(元帥)東郷平八郎氏が大いに関係しています。東郷氏が、イギリス留学中に食べた「ビーフシチュー」の味を非常に気に入って、帰国後に作ろうとしたのが始まりと言われているからです。

当時、ビーフシチューを作るように命じられた部下に与えられた情報は、「牛肉とじゃがいもが入っていて美味しい食べ物」との事。そして、とりえず醤油と砂糖で煮込んだところ、美味しい肉じゃがができたそうです。

※海軍厨業管理教科書には、次のように紹介されています。

- 一. 油入れ送気
- 二. 三分後生牛肉入れ
- 三. 七分後砂糖入れ
- 四. 十分後醤油入れ
- 五. 十四分後こんにゃく、馬鈴薯入れ
- 六. 三十一分後玉葱入れ
- 七. 三十四分後終了

なんかレシビな気がしないですね... (涙)

編集後記

◆地球市民の会も、夢の学校も、古賀道場も目まぐるしく活動しています。ですので、忙しさのためにないがしろになってしまっているものがたくさんあるのではないかと心配しています。◆特に、会員さんです。私たちは会員の想いに支えられて活動をしています。その思いは会費や寄付という形でお預かりしています。確かにお金お受けさせていただきました。しかし、お金だけをもらってそれだけになっているのではないかと。会員さんに報いるサービスがもっと必要ではないか。◆会員さんの中にはそのようなものはいらない、ただしっかりと活動していればそれでよい、とおっしゃる方もいらっしゃいます。◆そういつていただけるのはうれしい限りなのですが、私たちはもっと会員さんとつながって行きたいと考えています。◆新しい年になりました。次年度は地球市民の会も25周年を迎え「つながる」をキーワードに一年いろいろな事業を実施していこうと思います。皆さまの温かいご協力をいただかなければ私たちの活動はうまく進めることが出来ません。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。



スタッフのひとこと

平成20年はどんな年に?

地球市民の会

- 大野博之 日本に帰ってきて半年。やらなければいけない仕事が増えすぎて困っています。新年は有言不実行状態を何とか改善したいものだな、と思っています。
- 窪川 智 タイ・ミャンマー・スリランカ・韓国そして日本。お互いに実りのある交流プログラムを組んでいきたいです。奨学金事業、引き続きご支援をお願いいたします。まだ、ボーゲウ校の里親が埋まりません。
- 畑 恵子 プライベートの充実!公私ともに充実してこそ仕事もより一層捗るってのもんです。きっと。実は今年も同じ目標だったんですケドね...
- 落合清一 日々精進。毎日努力。長州小力のように「キレてないよ〜」と言える時間を増やす。それから... 来年、また考えます。皆さまに幸あれ!
- 西村尚子 もっともっと多くの人と出会いたいですね。色々な世界をのぞきたいです。年甲斐もなく。

古賀英語道場

- 古賀洋子 「やっぱり健康が一番です」そして、少しカラカラになった心に潤いを...(ついでにお肌にも)と思っています。今年一年有難うございました。
- 山下春美 息子の部活(バスケット)、中学校の役員からも開放され、きっと身軽な年になってくれると思います。どうかしばらく私を放っておいてください。

夢の学校をつくる会

- 相良伸武 本校開校に向け、忙しい日々を過ごしていますが、足元の花に目をとめる余裕を持ちたいものです。大切なものをしっかりと自分の中心に据え、前進あるのみ!
- 吉村 薫 月〜金タマテ箱の子ども達が増える予感!!ますます体力をつけなくては...。実態はいかに?皆さん、後押しよろしくお願ひしま〜す。
- 秦 里美 社会人になって1年目。あつという間に12月...。右往左往しながら過ぎてしまいました。来年は仕事も性格も、もっと落ちつけるよう頑張ります★



地球市民ネットワーク

- 北海道地球市民の会
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長/阿部功 事務局/新保知博
TEL・FAX: 0133-74-1296
- 地球市民の会ふくしま
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1
榎石 崇
会長/事務局担当 石黒秀司
TEL: 024-959-6426
FAX: 024-959-6577
- 地球市民の会東京
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長/有澤正典 事務局/青木高広
TEL: 03-3662-0331
FAX: 03-3662-0400
E-Mail: aoki@nun.co.jp
- 地球市民ACTかながわ
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長/近田真知子 事務局/伊吾田善行
TEL・FAX: 045-622-9661
E-Mail: port@tpak.org
- 地球市民の会ぎふ
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長/森幹治 事務局/平井八重子
TEL: 058-391-5415
FAX: 058-391-8600
E-Mail: miemiemie21@hotmail.com
- 地球市民みえの会
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバース3F
津市民活動センター内
会長/伊藤洋之 事務局/秋葉幸信
TEL: 059-226-5700
FAX: 059-224-8911
E-Mail: miemiemie21@hotmail.com
- 地球市民の会京都
〒605-0873 京都市東山区下島町484
会長/宮川尚子 事務局/西田一貴
- 神戸戸有頂天倶楽部
〒657-0045 神戸市灘区下河原通り3丁目4-3
会長/松元隆司 事務局/大西陽治
- 愛媛地球市民の会
〒790-1121 愛媛県松山市中野町甲640
はばたき授産園内
会長/篠崎和夫 事務局/丹生谷宗久
TEL: 089-963-3772
FAX: 089-963-3795
- 北九州地球市民の会
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長/河野一郎 事務局/大山研児
TEL: 093-521-8181
FAX: 093-551-2296
- 地球市民の会福岡
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
榎増屋内
会長/増田誠司 事務局/西村和寿
TEL: 092-801-5888
FAX: 092-801-5789
- (特活)コミネット協会
〒861-8039 熊本市長嶺南2丁目5-31
会長/山口久臣 事務局/富田、田中
TEL・FAX: 096-387-7139
- 古賀英語・空手道場
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-25-2295
FAX: 0952-26-4922
- 夢の学校をつくる会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL: 0952-22-6262
FAX: 0952-26-4922

ネットワーク・テラ冬号 VOL.129

発行/特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ: http://tpa.nk-i.net
E-mail: office@tpa.nk-i.net
TEL: 0952-24-3334 FAX: 0952-24-7321

発行日/2007年12月21日

発行人/古賀武夫

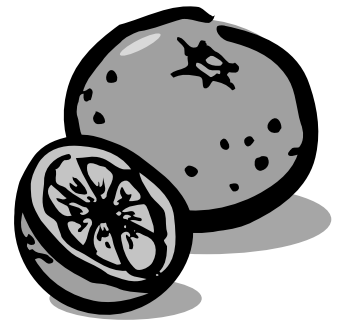
編集人/地球市民の会 事務局

印刷/株式会社サグプリンティング

テラコンソーシアム スタッフ一覧

地球市民の会	事務局長	大野 博之	古賀英語・空手道場	事務局長	古賀 洋子
	奨学金・国内事業・総務	窪川 智		事務長	山下 春美
	ミャンマー事業	畑 恵子			
夢の学校をつくる会	広報	落合 清一	事務局次長	相良 伸武	
	タイ事業担当ボランティア	西村 尚子		教務主任	吉村 薫
	庶務ボランティア	納富 ハヤ子		たまたま箱担当	秦 里美

行事予定



地球市民の会

19日 13時30分より
 【自然農業シンポジウム「自然農業から見る日本とミャンマーの未来」】
 2004年から取り組むミャンマーでの循環農業普及事業。この経験を佐賀で自然農業を実践する人々と意見交換をすることで、農業の未来を考えて見ます。
 《出演者》田中欽二氏(元佐賀大学農学部教授)、武富勝彦氏(スローフード大賞受賞者)、武藤正則氏(ホテル龍頭園 有機農園長)平野喜幸氏(地球市民の会ミャンマー委員長)
 場所: 佐賀市高木瀬公民館

20日 13時30分より
 【文化箏(ぶんかごと)チャリティコンサート】
 手軽でコンパクトなお琴、文化箏(ぶんかごと)の楽しさを広く知ってもらおうと活動する箏遊会(そうゆうかい)が主催するコンサートの入場料全額をミャンマー教育基金への募金としていただきます。童謡やポピュラー、映画音楽など親しみやすい曲を中心の暖かいコンサートとなります。
 場所: アバンセホール
 主催: 箏遊会(そうゆうかい)

26日
 【会員の“つながってる”集い+地球市民新年会】
 豪華ゲストを迎えてのミニレクチャー4本立て+ミニコンサートをお茶とお菓子で愉しみます。終了後は地球市民新年会「カラカラパーティー」～本場韓国のチゲ鍋と本場タイのトムヤムクン、どちらが日本人には辛いのか?～辛いものが苦手の方には豚汁雑煮もご用意!でいかがでしょうか?
 詳しい時間、場所はホームページ、メールマガジンでご案内します。

古賀英語・空手道場

5日
 【空手稽古始め・ぜんざい会】
 2004年から取り組むミャンマーでの循環農業一年間、ケガがないように自分なりの目標を定めて新しい気持ちで一年最初の稽古をします。そして、稽古の後、みんなでぜんざいをいただきます。

8日
 【英語3学期授業開始】
 一年間の締めくくりの学期です。4月の目標に近づけたかな?

夢の学校をつくる会



Pick Up!



映画上映会 **デッキ子どもたちは海を見る**
 地球市民の会の姉妹団体[地球市民ACTかながわ]が上映活動を行っている、タイのメートー学校の子供たちが生まれて始めて海を見に行く様子を作品にしたドキュメンタリー映画「デッキ 子どもたちは海を見る」を佐賀でも上映いたします。
 詳しい予定はホームページ、メールマガジンでご確認ください。
 メートー学校はタイ北部チェンマイ県にある少数民族のための学校。地球市民[ACTかながわ]が現在も支援を続けています。かつては、地球市民の会が学校建設を手伝ったことがあります。

中旬
 【空手冬季昇級審査会】



つながってるキャンペーン

絵本「つながってる! いのちのまつり」に触発されて、佐賀のピアノ弾き語りミュージシャン弓削田健介さんがオリジナル曲をCD化しました。作詞は原作者の草場一壽さん。これを記念いたしまして、絵本「いのちのまつり ヌチヌグスージ」と「つながってる! いのちのまつり」、オリジナルCDに、いのちのまつり特別ポスター(非売品)と草場一壽画伯の陶彩画ポストカードがついてのパッケージ商品を用意いたしました。プレゼントにいかがでしょうか?

この写真は、昨年末に大好評だったクリスマスCDセットの画像です。



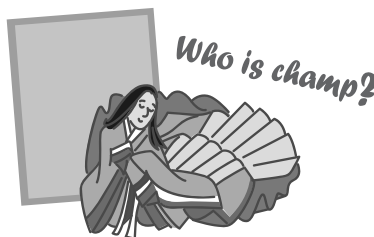
詳しくは別紙をご覧ください。

上旬
 【ミャンマーツアー】
 ミャンマーの素朴な笑顔に会いに行きませんか? 3月上旬に予定しています。
 ※詳しくはホームページ、事務局までお問合せください。

13日～31日(予定)
 【ミャンマーの子ども達を佐賀へ呼びます】
 子ども3名、先生1名、通訳1名、付き添い1名の合計6名。ただ今「ホームステイの受け入れ先」を大募集中です!!
 ※詳しくはホームページ、事務局までお問合せください。

下旬
 【里親ツアー】
 タイの子供たちの生活を見に行きませんか?
 ※詳しくはホームページ、事務局までお問合せください。

23日
 【英語カルタ大会】
 英語の生徒さんに一番人気の行事です。今年のチャンピオンはどのチームかな?



下旬
 【空手昇段審査会】

上旬
 【月～金タマテ箱『無料体験』】
 「月～金タマテ箱」ってどんな所? 何をやるの? ...そんな皆さんのために、無料体験を実施します。

22日
 【土ようタマテ箱終了式】



もうすぐ春がやってくるよ

1月

2月

3月